

## 「シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム 参加報告書」

京都大学文学部哲学専修3回 佐藤 望

今回の派遣が私にとって海外の大学等で学ぶ初めての機会であった。これまで海外で学びたいと強く考えていた為、シンガポール国立大学(NUS)で学ぶことができる今回の派遣プログラムは派遣前から非常に魅力的なものだった。

派遣先であるシンガポール国立大学では Yale-NUS College の Cendana という寮に宿泊させて頂いた。Yale-NUS は Yale 大学と NUS が近年共同でつくったカレッジで、NUS の本部と長い通路を介して隣接している。学生寮の Cendana は 20 階建てくらいの塔のような建物と広々とした中庭からなっており、熱帯のシンガポールでも部屋に心地よい風が入ってきた。食堂も天井が高く開放的だった。Yale-NUS 全体を見ても構内は広々としており、整備が行き届いている印象だった。学習環境についても、ゼミ等で使用した講義室も壁の3面にホワイトボードが設置され施設が充実していた。また各所に PC を広げられるようなベンチやカフェテリアがたくさんあり、学生の方も多くがそこで PC を広げて学習していた。

大学では Faculty of Arts & Social Science の philosophy department の先生方と Yale-NUS College の研究者の先生方から計8つのレクチャーを受けた(それらに加えて最終日には予定外のセミナーにも現地の多くの先生や学生に混ざって参加させて頂いた)。レクチャーのテーマは担当する先生によって変わり、受講者である日本人の学生の関心にできるだけ近いものが選ばれていた。アリストテレスやカント、ヒュームといった古典的な哲学者からデイヴィッドソンやクワインなどの現代に近い哲学者、そして分析哲学のピックとなる問題や倫理学まで幅広くテーマが扱われており、どのレクチャーも充実した内容だった。また授業ごとに予習課題のアサインメントが準備されていて、授業に関連する2本から3本の論文を授業の前に読む必要があったが、授業自体が休日を除いて毎日開講されていたため、数多くある授業の間をぬいながらアサインメントをこなすのが大変であった。

大学では全ての授業が英語で行われた。海外への留学・派遣は今回が初めてだった私は、はじめのうちは現地の先生方の英語についていくので精一杯であったが、徐々に英語にも慣れていき、最後の方のレクチャーでは先生にいろいろと講義の内容について質問したり、自分がこれから書こうとしている卒論の内容についても相談したり議論をしたりすることもできた。またレクチャーで扱われた哲学の内容について自分の中で理解や興味を深めることができた。

また現地では食堂での食事会や先生のご自宅にパーティーに招かれるなどして、授業以外でも大学の先生方や学生の方と交流する機会を得ることができた。学生の方とは様々なことを話せし(それにしても休暇にヨーロッパやアメリカの有名大学にさらっと行ってくるという感覚は日本の大学の学部生にはなかなか考えられない環境だ)、先生方の授業中とはまた違う一面を垣間見ることができた。こうした食事会やパーティーでは海外の人と交流することの難しさと楽しさを実感することができた。

シンガポールではこのように勉強に追われる生活ではあったが、休日を利用するなどして大学の外に観光にも出かけることがあった。マーライオンはもちろんのこと、ガーデンバイザベイの植物園や空中歩道にも行ったが、一番興味深かったのは国立博物館であった。展示がただ知識を伝えるためだけではなく、戦後社会の活気を伝える文化コーナーでは現在では解体された国立競技場で実際に使われた椅子に座るコーナーがあり、また当時の車に乗りながら実際の映像を観たりできるなど、展示をまわるのが楽しくなるように工夫されていた。またここではシンガポール側の視点から日本の第二次大戦の占領政策も展示されていて様々な立場や考えがあることを学んだ。また夕食を食べに近所のローカルなフードコートには何度もお世話になったが、お店で働いている方も中華系やインド系、そしてマレーシアから出稼ぎに来ていたりして(この方はアルコールの売り込みが凄かった！)シンガポールの多様性を実感した。

今回の派遣を通じて、私は上記のような様々な経験をすることができた。特に英語を用いてこれだけのコミュニケーションをし、レクチャーを受ける経験は日本ではあまりなかったため大きな刺激となった。その中で英語によって世界が広がること、

そして英語を用いて仕事をする事への興味が膨らんだと思う。今回の派遣では英語に少し苦勞することもあったため、これから派遣前より一層英語の習得に励むことで将来の可能性を広げたいと思う。また哲学を外国で学び研究することにもより一層興味が生まれたと思う。

今回のような短期の派遣プログラムは自分のような留学に行ってはみたいが、なかなか長い時間学校を離れる時間が見つからない、いきなり長期の留学や一人で海外に出るのは心配だ、という学生にとって、目標を同じくする学生で集まって行くことができるため非常によい機会になると思う。私自身今回のプログラムは非常に貴重な経験になった上、より長期の海外留学へのモチベーションにもなった。このようなプログラムがこれからも継続して行われてほしいと思う。そしてまた機会があれば是非、今回よりも自分の学力を蓄えた上で再び参加したいと思う。